

「年中夢求」

1. 「年中夢求」との出会い

右の似顔絵は、尊敬申し上げます広島の木原先生です。自らは、永年リフォーム店を経営されましたが、近年、息子さんにバトンタッチされた方です。ディリーメッセージ(11年3月20日で5204号)という社内向けの物を1週間分をまとめて当社にFaxして頂いています。



先日、ディリーメッセージの読後感を送ったところ、そのご返事の中に「年中夢求」と書いておられました。先生は、私の一回り上の方なので74歳になっておられます。数年前に胃がんの手術もされましたが、それを乗り越えて「1日4時間の睡眠」という事で、意気軒昂に活躍されています。そんな心境を「年中夢求」と表現されていました。

ネットで「年中夢求」を調べると86万1千件もヒットしているので、多くの方が使われている言葉と思いますが、私には、先生の「年中夢求」のお姿が浮かぶので非常に感銘を受けました。私も「年中夢求」で生きて行きたいと思ったのです。

2. 「新しいモノには、不思議なパワーがある」

FROM THE SUMMIT OF YEARS, FOUR SCORE

Youth

青春

青春とは人生のある期間ではなく、心の持ちかたを言う。

薔薇の面差し、紅の唇、しなやかな手足ではなく、たくましい意志、ゆたかな想像力、炎える情熱をさす。

青春とは人生の深い泉の清新さをいう。

青春とは臆病さを退ける勇気、

安きにつく気持を振り捨てての冒険心を意味する。

ときには、二〇歳の青年よりも六〇歳の人に青春がある。年を重ねただけで人は老いない。理想を失うとき初めて老いる。

歲月は皮膚にしわを増すが、熱情を失えば心はしぼむ。

苦悩・恐怖・失望により気力は地に這い精神は芥になる。

六〇歳であろうと一六歳であろうと人の胸には、

驚異に魅かれる心、おさな児のような未知への探究心、

人生への興味の歓喜がある。

君にも吾にも見えざる駆遣が心にある。

人から神から美・希望・よろこび・勇気・力の

靈感を受ける限り君は若い。

靈感が絶え、精神が皮肉の雪におおわれ、

悲歎の水にとざされるとき、

二〇歳であろうと人は老いる。

頭を高く上げ希望の波をとらえる限り、

八〇歳であろうと人は青春にして已む。

上掲は、TBSブリタニカ発行 訳者：作山宗久(1989年初版)にあるサミュエル・ウルマンの「青春」の訳文です。この詩の凄いところは「若さとは肉体的なものを指すのではなく、心の若さを言うのだ」という点です。確かに、若い人でも「老人めいた」人が多いのです。また、年配の方でも「若々しい」方もおられるのです。木原先生は、私よりも一回り年上の方ですが、しかも、胃がんの手術もなさった方ですが、若々しい行動力をお持ちの方です。その方が「年中夢求」とおっしゃるのですか

ら「腑に落ちる」というものです。

さて、「夢を求める」という事ですが、まず、「夢」は一つなのかという点が課題になります。確かに、一途に一つの夢を求めるのも重要と思いますが、多くの凡人にとっては、なかなか難しいものです。私は、あれこれとあっても良いと考えるのです。次から次へと興味が湧いて来るのも「若さ」の一つだと思うのです。「興味が湧く」という事が重要なのです。カンタンに言えば、いろんな事に「あっ、これって面白い」と感嘆できるか否かと思うのです。

この反対は、何事にも「バツ」ばかりを探す人がいて、周囲の人がドンドン遠ざかって行くのです。これでは、「若い」と言っても「人格」が凝り固まって行くばかりで、ついには頑固者と評されるようになるのです。この結果、どんどん内向きになり、趣味が「盆栽」から「骨董品」と精気のない物へ移って行くのです。これでは、「夢を求める」と言っても「前向き」ではなくなってしまい、若い人から遠ざかってしまうのです。

やはり、「これって、おもしろい」と感動できる事が重要です。船井総研で勉強した時に、指導の宮内先生は「受容力」とおっしゃっていましたが、まさに、新しい物を受け入れる思考の柔軟性が重要なのです。年がとったからと言って、iPADやスマートフォンを毛嫌いするのでは「年中夢求」は叶わないと思うのです。自分で操作できなくても、これは面白いと興味を持つ事から始まるのです。「新しいモノ」には、「新しい夢」を呼ぶパワーがあるのです。もし、iPADを操作できるようになったら、若い人と一緒にプレゼンの練習も出来るのです。「モノ」ですから、新しい会合などの人的な要素も加わるのです。いろんな会合に出かけるのも「若さ」の一つと思います。私は、年金の殆どをこの要素に使っても良いと思っています。

3. 「これって、おもしろい」で人の輪

「年中夢求」から「新しいモノにパワーがある」とか「これって、おもしろい」という風に発展して来たのですが、こういう風になっているといろんな会合に参加するようになるし、いろんな人から教わることでも「これって、おもしろい」と感動できるので人付き合いも多くなると思うのです。従って、必然的に「あれやこれや」と興味が広がって、柔軟性が増して行くのです。その結果として、多くの老若男女の人の輪が出来るようになるのです。

このように、人の輪が出来るようになると、非常に忙しくなるのです。「年をとった」とか「この病気で・・・」とか言うネガティブな言葉が消えて行き、どんどん「前向き」な発言になって行くのです。よく、「哺乳類はラクな方に流される」と言いますが、その逆の流れになって行くのです。木原先生のように寝る時間が4時間という風に研ぎ澄まされるのです。忙しいことが億劫ではなくなり、逆に、イキイキとして「忙しさ」を楽しめるようになるのです。

私は、「これって、おもしろい」という感動力を磨き、その面白いを若い人に実践してもらえるような老人になって行きたいのです。「年中夢求」・・・楽しい老人を目指したい。

【まとめ】

1. 「夢」≒「好奇心」とすれば、「これって、おもしろい」という感動力がポイントになる
2. 新しいモノには不思議なパワーがある
3. 自分でするばかりでなく、若い人の支援でも大いに結構なのだ

【AMIニュースのバックログは<http://www.web-ami.com/siryu.html> でご覧になれます！】